

は3例(1.4%)であったが、2009年～2013年はそれぞれ68例(39.5%)、55例(32.0%)と著明に増加している。

2009年～2013年の5年間のHIV感染判明時期と妊娠転帰について図22にまとめた。HIV感染判明時期別の分娩率は、感染が分からずに分娩に至ったのは当然であるが100.0%、感染が分からずに妊娠し、妊娠中に感染が判明した場合は89.1%が分娩し、感染判明後に初めて妊娠した場合は72.0%が分娩になり、感染判明後に2回以上妊娠した場合は60.0%しか分娩に至っていない。妊娠回数が増える毎に分娩率は低下していた。人工妊娠中絶率は、感染判明後初めての妊娠は17.6%で、感染判明後2回以上妊娠は23.6%に増加した。

今後感染判明後の妊娠は増加すると予想されるため、生活環境を含めた分娩後のフォローアップや家族計画を含めた患者教育が非常に重要になっていくと考えられた。

D. 考察

HIV感染妊娠の報告都道府県では関東甲信越が中心であることに変化はないが、妊婦の国籍では日本人の占める割合が増加傾向で約半数を占めるようになってきた。外国籍ではブラジルやインドネシアが増加しているのは、母国のHIV感染状況や日本への入国者数に関連していることが推測される。

分娩様式では、帝王切開が増加し経膈分娩の減少は著明である。同時に緊急帝王切開が増加傾向であるが、これらの適応のほとんどは切迫早産などの産科的理由であり、むしろ経膈分娩を回避するというHIV感染妊婦の管理方針が徹底されてきた結果であろうと理解される。しかし緊急帝王切開での分娩週数が早産傾向にあり、一般妊婦における切迫早産の増加傾向と連動している可能性がある。

母子感染例は2011年から3年連続で報告がなかったことは幸いであるが、未受診妊婦などにおけるHIVスクリーニング検査の未施行例

が依然散発していることから、今後HIV母子感染例が発生する可能性は否定できない。強力な抗ウイルス療法と選択的帝王切開により母子感染率は0.4%まで抑制可能となったことは、当研究班が作成し周知してきた母子感染予防対策マニュアルなどによる教育・啓発活動の一定の成果であろうと考える。しかし最近欧米のガイドラインでは、抗ウイルス療法により血中ウイルス量が良好にコントロールされている場合においては、経膈分娩も選択可能であると明示されている。わが国においては、あえて経膈分娩を選択した例は極端に少なく、その安全性を確認することはできない。今後ウイルス量が1000コピー未満であれば経膈分娩も可能とするならば、表9に示した470妊娠中192例(40.9%)もがその候補となり、医療機関の体制整備が必要となり、大きな課題となるであろう。

妊婦におけるHIVスクリーニング検査の標準化により、未受診妊婦以外の妊婦はほぼ妊娠初期にHIV感染の有無が診断されるようになった。しかし図10と図11に示したように、毎年30例前後報告されるHIV感染妊娠の中で、当該妊娠中にHIV感染と診断される妊娠数は減少傾向にある反面、HIV感染判明後の再妊娠数が増加している。母子感染をほぼ完全に抑制しうるようになったことが再妊娠の増加に関与していることは明らかであるが、今後HIV感染妊娠の年間報告数の減少につながるかどうかは明らかではない。妊娠の可能性のある年代の女性のHIV感染数が減少することが重要な要素である。

HIV感染妊婦の診療体制は拠点病院が中心になってきており、90%の妊婦の妊娠転帰は拠点病院において行われるようになったことは、診療体制の成熟を意味する。さらに表29から、HIV感染妊娠の診療は各都道府県の1~2か所の拠点病院が中心となって担当することが可能であろうと考えられる。

これまでの研究から得られた成果から考えられる検討課題として、①HIV感染妊娠の発生

動向の予測、②HIV 母子感染予防対策の改訂と母子感染率のさらなる低下、③経膈分娩を可能とする欧米の診療ガイドラインとわが国の診療体制との乖離の説明あるいは解消、④わが国の HIV 感染妊婦への診療体制の現状把握と再整備の必要性の検討、⑤HIV 感染妊婦を診療する医師やコメディカルの教育と修練、⑥国民への啓発と教育などがあげられる。

上記検討課題を具体化するために、本報告書の図表のあとに、2014 年の日本エイズ学会「特別ディスカッション: 良好な経過を示す HIV 陽性妊婦の分娩方法～選択的帝王切開か経膈分娩か～」で提示したスライドを掲載したのでその内容を説明する。当研究班は 2000 年に HIV 母子感染予防対策マニュアル第 1 版を刊行したが、以降 2014 年刊行の第 7 版まで、HIV 感染妊婦には一貫して選択的帝切分娩を推奨してきた。しかし欧米では、抗ウイルス療法による血中ウイルス量のコントロール下における分娩様式の推奨に関して、2005 年ヨーロッパのコホート研究が推奨した選択的帝切分娩から、2008 年英国とアイルランドの報告では選択的帝切分娩と経膈分娩との間に差はないということに変わってきた。さらに 2010 年以降は欧米全体で、ウイルス量が 1000 コピー未満、400 コピー未満あるいは 50 コピー未満であれば、選択的帝切分娩は推奨されておらず、経膈分娩が可能であることが示されている。しかし 2014 年に改訂された米国のガイドラインでは、経膈分娩が可能であるとするウイルス量の基準を 1000 コピー未満とする理由が曖昧で、1000 コピー未満と 50 コピー未満とでは母子感染率に差がある可能性があるとも記載されている。母子感染率はどちらの分娩様式でも 1%程度で差がなく、統計的に選択的帝切分娩の有効性が示されない限りは、経膈分娩も可能とするという考え方である。さらに分娩に関わる費用に関しての言及はない。一方われわれの刊行した HIV 母子感染予防対策マニュアル第 7 版では、全国の 370 の拠点病院を対象に行った HIV 感染妊婦

および新生児の受け入れに関するアンケート調査の結果を掲載している。その中で、HIV 感染妊婦と新生児の受け入れが可能としているのは、回答のあった 251 病院のうち 124 病院 (49.4%) のみであり、受け入れ不可の理由として、産科医や小児科医のマンパワー不足やコメディカルスタッフの知識や技術の不足をあげている。日本の妊産婦死亡率や周産期死亡率は世界のトップレベルであるにもかかわらず、HIV 感染妊娠に特化した医療体制の整備は未だ不十分といえる。ましてや分娩前のウイルス量が 1000 コピー未満である場合が 90%以上である最近の状況では、これらの HIV 感染妊婦の経膈分娩に対応できる医療機関は少ないであろうと考えられる。またわが国と欧米の医療経済事情は大きく異なっている。わが国と米国における経膈分娩の費用はそれぞれ 40～80 万円と 80～250 万円で、帝切分娩になるとそれぞれ約 100 万円と 100～400 万円である。しかも帝切分娩であれば、わが国では国民皆保険により医療費の 7 割がカバーされ、さらに高額医療制度や出産育児一時金制度により患者の負担はなくなり、むしろ 34 万円程度の余剰金が残る結果となる。一方経膈分娩では多くは自費診療となり、一般妊婦と同様に破水などによる子宮内感染や胎児機能不全などの産科的適応による緊急帝切分娩のリスクを伴う。それとともに母子感染のリスクも上昇する可能性があるため、医療機関は専門スタッフの 24 時間体制を整えなければならない。上記のようなわが国の医療経済事情を踏まえて、患者からインフォームド・コンセントを得ようとするれば、分娩様式の選択はどのように変化するのであろうか。今後の大きな検討課題であろうと考える。

E. 結論

HIV による母子感染が、治療薬の発達や帝王切開分娩により十分に予防可能であることが周知されるようになったことから、日本における HIV 感染妊婦の諸問題に関する啓発活動が

実を結びつつあると考える。その反面、HIV 感染判明後の妊娠が増加しつつあり、医学的・社会的な面での妊娠指導や分娩後のフォローアップが重要となってくる。今後、分娩様式の選択をはじめとする母子感染予防対策の改訂と並行して、患者教育を含めた社会的啓発・教育活動をより推進していく必要があると考える。

G.研究発表

1. 著書

1. 箕浦茂樹、中西美紗緒. 4. 母子感染症 4 HIV. 症例から学ぶ周産期診療ワークブック (日本周産期・新生児医学会 教育・研修委員会編)、pp197-200、メジカルビュー社、東京、2012
2. 明城光三、和田裕一、五味淵秀人、蓮尾泰之、吉野直人、喜多恒和、外川正生、稲葉憲之、塚原優己. VIII. 先天性・母子感染症 HIV 母子感染. 別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ No 2 5 感染症症候群 (第2版) - 症候群から感染症単一疾患までを含めて - 下 臓器別感染症編、pp703-707、日本臨牀社、2013

2. 論文発表

(欧文)

1. Okadome M, Saito T, Tanaka H, Nogawa T, Furuya R, Watanabe K, Kita T, Yamamoto K, Mikami M, Takizawa K. Potential impact of combined high-and low-risk human papillomavirus infection on the progression of cervical intraepithelial neoplasia 2. J.Obstet Gynaecol Res 40(2) : 561-569, 2014

(和文)

1. 蓮尾泰之、明城光三、和田裕一、吉野直人、林 公一、喜多恒和、塚原優己、外川正生、稲葉憲之. Human Immunodeficiency Virus (HIV) 陽性妊婦への医療側の対応-HIV 母子感染予防における HIV 拠点病院の現状

- 医療 66 (2) : 49-54, 2012

2. 稲葉憲之、大島教子、稲葉未知世、伊藤志峯、岡崎隆行、西川正能、渡辺 博、深澤一雄、吉野直人、喜多恒和、外川正生、明城光三、和田裕一、塚原優己. 母子感染 HIV/AIDS (今月の臨床 性感染症と母子感染 最新の診断と管理). 臨床婦人科産科 67 (1) : 160-170, 2013
3. 伊藤由子、吉野直人、高橋尚子、喜多恒和、外川正生、塚原優己、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一. 妊婦の HIV 感染確認と HIV 感染妊婦に対する意識に関する全国助産所調査. 日本エイズ学会誌. 15(1) : 18-24, 2013
4. 谷口晴記、塚原優己、山田里佳、田中浩彦、伊藤譲子、鳥谷部邦明、千田時弘、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、吉野直人、外川正生、喜多恒和、稲葉憲之、和田裕一. 本邦における HIV 母子感染予防対策について. 日本産婦人科・新生児血液学会誌 22 (2) : 69-73, 2013
5. 喜多恒和、吉野直人、外川正生、塚原優己. HIV と妊娠 (特集 産婦人科性感染とその対策 性感染症と妊娠). 産婦人科の実際 62 (4) : 513-520, 2013
6. 塚原優己、喜多恒和、外川正生、吉野直人、谷口晴記. 【母子感染 up to date】 HIV 感染症. 産婦人科の実際 62 (11) : 1473-1480, 2013
7. 中西美紗緒、箕浦茂樹. 【らくらく理解! 見方・読み方・読む視点 保存版:産科の検査値まるごと大図鑑】 HIV(解説/特集). ペリネイタルケア. 32 (6) : 547-549, 2013
8. 吉野直人、高橋尚子、伊藤由子、竹下亮輔、杉山 徹、喜多恒和、富山正生、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己. 診療所と病院における妊婦 HIV スクリーニング検査の比較. 日本エイズ学会誌. 16(1) : 12-17, 2014
9. 塚原優己、喜多恒和、外川正生、吉野直人、谷口晴記. 【女性と感染症 up to date】 HIV

感染症. 産科と婦人科 81 (4) :468-472,
2014

10. 中西美紗緒、矢野哲【管理法はどう変わったか?:温故知新 産科編】 HIV 感染妊婦の管理 周産期医学, 44(3) :353-355, 2014
11. 喜多恒和. HIV 進む予防、治療法—母子感染予防—. 読売新聞 (2013年12月1日).
くらし教育面
12. 喜多恒和. HIV の妊婦 803 人 母子感染の予防進む. 朝日新聞 (2014年5月9日)
13. 喜多恒和. HIV 感染妊婦の経膈分娩、わが国でも容認するのか. Medical Tribune (2014年12月25日)

3. 学会発表

(国際)

1. Akagi K, Wada Y, Oosawa S, Suzuki T, Gomibuchi H, Hasuo Y, Hayashi K, Taniguchi H, Yoshino N, Kita T, Togawa M, Ooshima K, Inaba N, Tukahara Y. The role of perinatal medical center for treating HIV-infected pregnant women with premature delivery in Japan. Fetal and Neonatal Physiological Society, Vincent, 2014. 8

(国内)

1. 喜多恒和:性感染症と子宮頸がんワクチン. 奈良県助産師会研修会, 2012年2月、奈良.
2. 喜多恒和、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、瀬戸 裕、大井理恵、佐久本薫、太田 寛、塚原優己、稲葉憲之、和田裕一:わが国の HIV 感染妊婦と母子感染予防対策の現状. 第 64 回日本産婦人科学会学術講演会, 2012年4月、神戸.
3. 谷口晴記、塚原優己、山田里佳、伊藤譲子、鳥谷部邦明、千田時弘、田中浩彦、朝倉徹夫、吉野直人、外川正生、喜多恒和、稲葉憲之、和田裕一:母子感染 HIV 母子感染予防対策の現状と課題. 第 22 回日本産婦人科・新生児血液学会, 2012年6月、津.

4. 喜多恒和: (セミナー) HIV 感染妊娠および出生児の全国調査から見えてきたもの～臨床的・社会的問題への対応～3. 産婦人科・小児科全国調査の推移. 第 26 回日本エイズ学会学術集会, 2012年11月、横浜.
5. 吉野直人、喜多恒和、伊藤由子、杉山 徹、高橋尚子、外川正生、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己:妊婦 HIV スクリーニング検査実施率の変遷. 第 26 回日本エイズ学会学術集会, 2012年11月、横浜.
6. 喜多恒和、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、岩田みさ子、小林裕幸、佐久本薫、石橋理子、杉浦 敦、藤田 綾、吉野直人、外川正生、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己:HIV 感染妊婦の動向と母子感染予防対策. 第 26 回日本エイズ学会学術集会, 2012年11月、横浜.
7. 吉野直人、喜多恒和、伊藤由子、杉山 徹、高橋尚子、外川正生、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己:日本における HIV 母子感染と妊婦 HIV スクリーニング検査実施率の変遷. 日本性感染症学会第 25 回学術大会, 2012年12月、岐阜.
8. 喜多恒和: (特別講演) わが国の HIV 感染妊娠の現状と他の感染症について. 平成 24 年度兵庫県医師会感染症研修会, 2013年1月、神戸.
9. 喜多恒和: (研修会) エイズ、過去・現在・未来～HIV 母子感染予防の歴史～. HIV/AIDS 研修会, 2013年3月、下関.
10. 明城光三、和田裕一、五味淵秀人、蓮尾泰之、林 公一、谷口晴記、喜多恒和、大島教子、稲葉憲之、塚原優己:東京都における早産 HIV 感染妊婦の診療体制に関する調査. 第 65 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2013年5月、札幌.
11. 喜多恒和、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、岩田みさ子、佐久本薫、太田 寛、稲葉憲之、和田裕一、戸谷良造、塚原優己:わが国における HIV 感染女性の

- 再妊娠の転帰に関する検討. 第 65 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2013 年 5 月、札幌.
12. 喜多恒和: (ミートザエキスパート) HIV 感染妊娠の現状と問題点. 第 30 回日本産科婦人科感染症研究会, 2013 年 6 月、東京.
 13. 喜多恒和: わが国の HIV 母子感染に関する全国調査報告. 奈良県産科婦人科医会学術講演会, 2013 年 6 月、奈良.
 14. 稲葉憲之、塚原優己、吉野直人、喜多恒和、外川正生、明城光三、大島教子、和田裕一、戸谷良造: (会長招請プレナリーセッション) HIV 母子感染対策におけるわが国の努力とその成果—諸外国の実状と比較して—. 第 27 回日本エイズ学会学術集会, 2013 年 11 月、熊本.
 15. 吉野直人、喜多恒和、外川正生、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己: (シンポジウム) 妊婦 HIV 検査の現状と課題. 第 27 回日本エイズ学会学術集会, 2013 年 11 月、熊本.
 16. 喜多恒和、吉野直人、外川正生、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己: (シンポジウム) わが国における HIV 感染妊娠の動向と近年の特徴. 第 27 回日本エイズ学会学術集会, 2013 年 11 月、熊本.
 17. 矢永由里子、山田里佳、谷口晴記、千田時広、佐野貴子、喜多恒和、外川正生、吉野直人、大島教子、明城光三、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己: 妊婦 HIV スクリーニング検査の調査による検査時対応の現状と課題の検討. 第 27 回日本エイズ学会学術集会, 2013 年 11 月、熊本.
 18. 吉野直人、喜多恒和、高橋尚子、伊藤由子、杉山 徹、竹下亮輔、外川正生、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己: 病院及び診療所における妊婦 HIV スクリーニング検査実施率の推移. 第 27 回日本エイズ学会学術集会, 2013 年 11 月、熊本.
 19. 山田里佳、谷口晴記、千田時広、矢永由里子、佐野貴子、明城光三、喜多恒和、外川正生、吉野直人、大島教子、和田裕一、稲葉憲之、塚原優己: 妊婦 HIV スクリーニング検査の偽陽性に関する調査—2004 年調査と比較して—. 第 27 回日本エイズ学会学術集会, 2013 年 11 月、熊本.
 20. 喜多恒和、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、佐久本薫、太田寛、稲葉憲之、和田裕一、戸谷良造、塚原優己: わが国における HIV 感染妊娠の近年の動向. 第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2014 年 4 月、東京.
 21. 谷口晴記、山田里佳、千田時弘、井上孝実、蓮尾泰之、林 公一、喜多恒和、大島教子、明城光三、和田裕一、稲葉憲之、塚原優己: わが国独自の「HIV 母子感染予防対策マニュアル」改訂第 7 版について. 第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2014 年 4 月、東京.
 22. 喜多恒和、吉野直人、外川正生、藤田 綾、石橋理子、杉浦 敦、中西美紗緒、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、佐久本薫、太田寛、小林裕幸、箕浦茂樹、大島教子、明城光三、戸谷良造、和田裕一、稲葉憲之、塚原優己: わが国における HIV 感染妊娠の動向. 第 31 回日本産科婦人科感染症研究会学術集会, 2014 年 6 月、神戸.
 23. 吉野直人、喜多恒和、高橋尚子、外川正生、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己: 妊婦 HIV スクリーニング検査実施率の推移と現状. 第 31 回日本産科婦人科感染症研究会学術集会, 2014 年 6 月、神戸.
 24. 山田里佳、谷口晴記、千田時広、矢永由里子、佐野貴子、喜多恒和、外川正生、吉野直人、大島教子、明城光三、稲葉憲之、塚原優己: 妊婦 HIV スクリーニング検査の偽陽性に関する調査—2004 年と 2012 年と比較して—. 第 31 回日本産科婦人科感染症研究会学術集会, 2014 年 6 月、神戸.
 25. 喜多恒和: (特別講演) 学校における性感染症教育について. 平成 26 年度奈良県医師

会学校医部会総会. 2014年8月、奈良.

26. 喜多恒和: (特別ディスカッション) わが国における HIV 母子感染予防対策の歴史—帝切と普通分娩のメリットとデメリット. 第 28 回日本エイズ学会学術集会, 2014 年 12 月、大阪.
27. 杉浦 敦、喜多恒和、藤田 綾、吉野直人、外川正生、塚原優己: 最近 5 年間の HIV 感染妊娠とその背景に関する検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会, 2014 年 12 月、大阪.
28. 喜多恒和、吉野直人、外川正生、杉浦 敦、藤田 綾、高橋尚子、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、佐久本薫、太田寛、石橋理子、大島教子、明城光三、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己: わが国における HIV 感染妊娠 857 例の臨床的疫学的検討. 第 28 回日本エイズ学会学術集会, 2014 年 12 月、大阪.
29. 赤城光三、大沢昌二、鈴木智子、蓮尾泰之、五味渕秀人、林 公一、谷口晴記、喜多恒和、外川正生、吉野直人、大島教子、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己: HIV 感染妊婦診療における周産期母子医療センターの役割. 第 28 回日本エイズ学会学術集会, 2014 年 12 月、大阪.
30. 吉野直人、喜多恒和、高橋尚子、伊藤由子、杉山 徹、竹下亮輔、外川正生、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己: 妊婦 HIV スクリーニング検査実施率と他の感染症検査との比較. 第 28 回日本エイズ学会学術集会, 2014 年 12 月、大阪.
31. 木内英、加藤真吾、細川真一、田中瑞恵、中西美紗緒、定月みゆき、田沼順子、潟永博之、矢野哲、菊池嘉、岡慎一: 成人と新生児における AZT リン酸化物細胞内濃度の比較. 第 28 回日本エイズ学会, 2014 年 12 月、大阪.
32. 竹下亮輔、吉野直人、喜多恒和、伊藤由子、

杉山徹、外川正生、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己: 我が国の病院における妊婦 HIV スクリーニング検査の現状と他のスクリーニング検査との比較. 第 27 回日本性感染症学会, 2014 年 12 月、神戸.

H.知的財産権の出願・登録状況

なし

妊婦統合症例番号 (当方記入欄)	
---------------------	--

HIV 母子感染二次調査用紙

主治医氏名								
医療機関名								
妊婦生年月日	西暦	年	月	日	今回妊娠初診時年齢	歳		
今回妊娠の 初診時について	初診日	西暦	年	月	日	妊娠週数	週	日
	エイズ 関連症状	特になし ・ 症状あり 「症状あり」の場合は具体的な症状をご記入ください。						
	感染経路	性的接触 ・ 薬物使用 ・ 輸血 ・ 母子感染 ・ 不明 ・ その他()						
	感染 判明時期	今回妊娠時 ・ 前回妊娠時 ・ その他の機会() ・ 不明 判明日 西暦 年 月 日						
	診断法	スクリーニング検査 ・ WB法 ・ ウイルス量測定 ・ 不明						
	初診時の 治療状況	治療なし ・ 治療あり 「治療あり」の場合は治療開始時期・投薬についてなど具体的な内容をご記入ください。 治療開始時期: 西暦 年 月 日 薬剤名()						
	紹介元について	紹介元なし ・ 貴施設内科 ・ 他施設 「他施設」の場合にご記入ください。 紹介元病院名: 紹介日: 西暦 年 月 日 担当医師名:						
妊婦について	国籍 (出生国)	日本 ・ 外国 ・ 不明 「外国籍妊婦」の場合にご記入ください。 国名: 日本滞在期間: 年 か月 / 来日時期: 年 月頃 ビザの有無: あり ・ なし ・ 不明						
	婚姻関係	あり ・ なし ・ 不明						
	医療保険	社保 ・ 国保 ・ 生保 ・ 保険加入なし ・ 不明						
	職業など その他情報							
	パートナーに ついて	国籍	日本 ・ 外国(国名:) ・ 不明					
HIV 感染 について		陽性 ・ 陰性 ・ 不明						
		エイズ関連症状: あり ・ なし ・ 不明 「症状あり」の場合は具体的な症状をご記入ください。						
職業など その他情報								

妊娠歴について	(正期産過期産-早産-流産-生児数)		- - -	
	妊娠歴①	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経膈分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 妊娠転帰施設: () 出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:		
	妊娠歴②	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経膈分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 妊娠転帰施設: () 出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:		
	妊娠歴③	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経膈分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 妊娠転帰施設: () 出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:		
	妊娠歴④	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経膈分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 妊娠転帰施設: () 出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:		
	妊娠歴⑤	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経膈分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 妊娠転帰施設: () 出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:		
子宮がん・その他 性感染症について	スミア	日母・ベセスダ分類()・不明	クラミジア	(-)・(+)・不明
	HBV	(-)・(+)・不明	梅毒	(-)・(+)・不明
	HCV	(-)・(+)・不明	GBS	(-)・(+)・不明
	淋菌	(-)・(+)・不明	その他	

今回の妊娠について

妊娠経緯	予定内妊娠 ・ 予定外妊娠
妊娠方法	自然 ・ 人工授精 ・ 体外受精 ・ その他() ・ 不明
分娩日(転帰日)	西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日)
妊娠転帰	分娩 ・ 自然流産 ・ 人工妊娠中絶 ・ 妊娠中 ・ 不明
分娩場所	貴施設 ・ 他施設 ・ 不明
	「他施設」へ紹介された場合はご記入ください。 紹介先: 紹介日:西暦 年 月 日 担当医師名:

分娩様式	経膣 ・ 緊急帝王切 ・ 選択的帝王切		
	上記の分娩様式を選択した理由		
陣痛について	自然陣痛 ・ 誘発陣痛 ・ 陣痛なし ・ 不明	破水から分娩までの時間	時間 分
破水について	陣痛開始前に自然破水 ・ 陣痛開始後に自然破水 ・ 人工破膜 ・ 不明		
分娩時間	時間 分	アプガースコア	1分: 点/5分 点
羊水混濁	あり ・ なし ・ 不明	羊水感染	あり(起因菌:) ・ なし ・ 不明
分娩時の点滴	AZT投与 ・ 投与なし ・ その他投薬()		
児について	HIV感染	感染 ・ 非感染 ・ 判定中 ・ 不明	
	性別	男児 ・ 女児 ・ 不明	出生時体重 g
	母乳	投与あり(期間 月) ・ 投与なし ・ 不明	
	AZT	投与あり ・ 投与なし ・ その他投薬()	
	シロップの投与	「投与あり」の場合はご記入ください。 投与期間: 生後 日・週 ~ 日・週 (mg/日) 副作用: あり ・ なし (症状:) 投与の中止: あり ・ なし (理由:)	

妊婦の治療について

妊娠中の投薬について	投薬あり ・ 投薬なし ・ 不明
	「投薬あり」の場合はご記入ください。 投与期間: 妊娠前から ・ 妊娠 週 ~ 週 薬剤レジメン: AZT(レトロビル) ・ AZT+3TC(エビビル)+NFV(ピラゼプト) ・ AZT+3TC+LPV/RTV(カイトラ) その他レジメン()
	副作用: あり(症状:) ・ なし ・ 不明
産後の投薬について	投薬あり ・ 投薬なし ・ 不明
	「投薬あり」の場合はご記入ください。 投与期間: 産後 週・日 ~ 週・日 ・ 現在も継続中 薬剤レジメン: AZT(レトロビル) ・ AZT+3TC(エビビル)+NFV(ピラゼプト) ・ AZT+3TC+LPV/RTV(カイトラ) その他レジメン()
	副作用: あり(症状:) ・ なし ・ 不明
産後の投薬について	薬剤変更した場合: 期間(産後 週・日 ~ 週・月) 薬剤レジメン() 変更した理由: コンプライアンス不良 ・ 治療効果不良 ・ 薬剤耐性出現 ・ 副作用出現 ・ その他()

薬剤耐性	あり(詳細: _____)・なし・不明・検査未実施
その他 特記事項	

妊婦ラポデータ

妊娠週数		妊娠前	妊娠初期 妊娠 週 日	妊娠中期 妊娠 週 日	妊娠後期 妊娠 週 日	分娩直前 妊娠 週 日	分娩直後 産後 週・ヵ月	産褥 産後 週・ヵ月
採血年月日		年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
血算	白血球数 (/μl)							
	血小板 (×10 ⁴ /μl)							
	リンパ球 (%)							
	リンパ球数 (/μl)							
リンパ球 分画	CD4(%)							
	CD8(%)							
	CD4 数 (/μl)							
	CD8 数 (/μl)							
	CD4/8							
ウイルス 量	RNA (コピ-/ml)							

最終受診日	西暦 年 月 日 ・ 現在も受診中
予後	変化なし・病状進行・死亡・追跡不能・貴施設内科を受診中・他施設へ紹介 「他施設へ紹介」された場合はご記入ください。 紹介先病院名と診療科: 紹介日:西暦 年 月 日 担当医師名:
その他 特記事項	感染妊婦・パートナー・児を含め、できるだけ多くの情報をご記入ください。

ご協力ありがとうございました

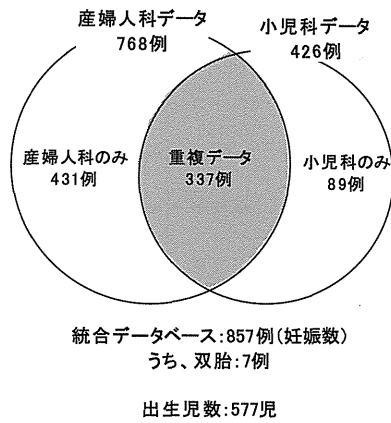


図1 平成26年度産婦人科小児科統合データベース構築

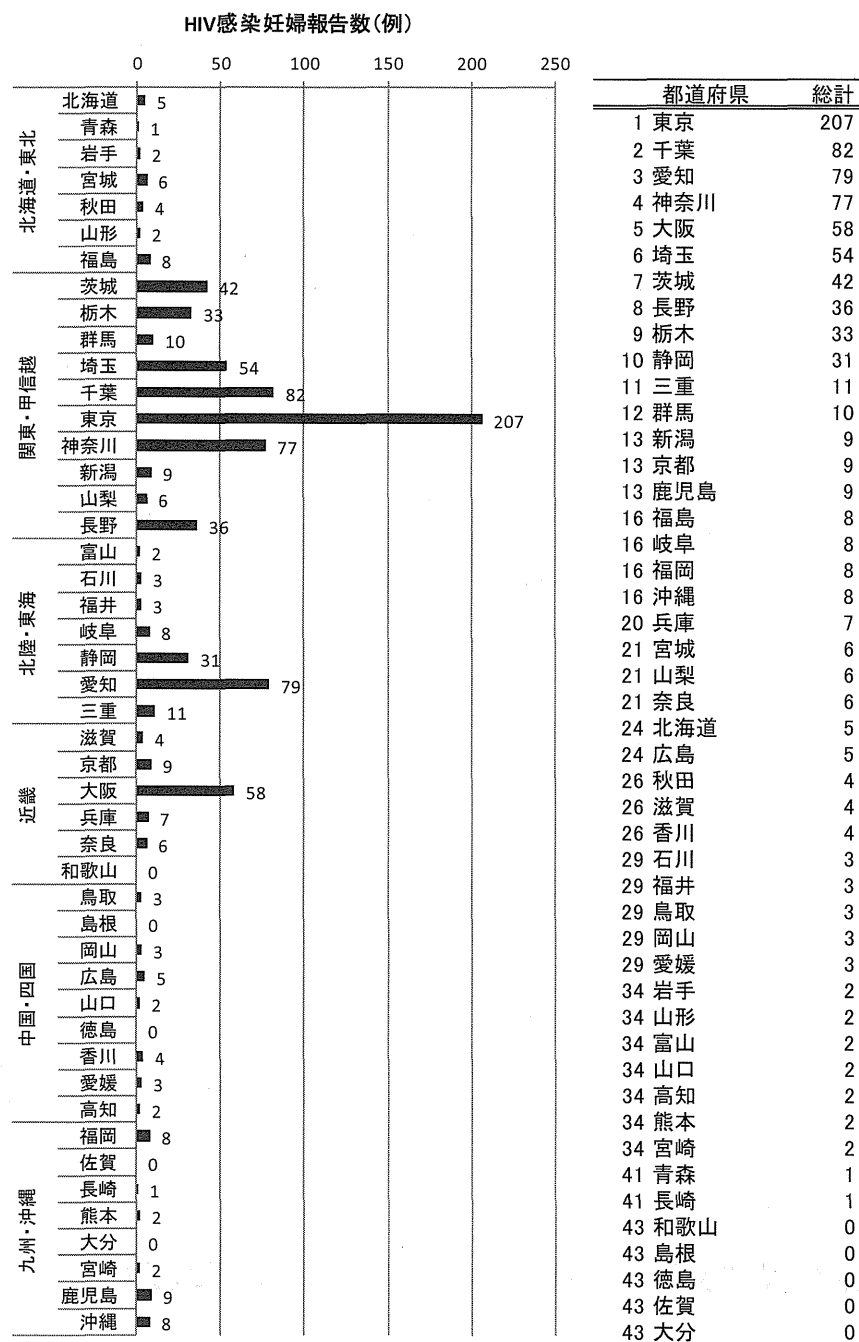


図2 HIV感染妊娠の報告都道府県別分布

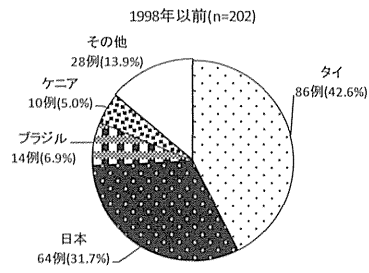
表1 HIV感染妊娠の報告都道府県別・年次別

地方ブロック 都道府県	転帰年																											不明	総計						
	S59 1984	S60 1985	S61 1986	S62 1987	S63 1988	H1 1989	H2 1990	H3 1991	H4 1992	H5 1993	H6 1994	H7 1995	H8 1996	H9 1997	H10 1998	H11 1999	H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010			H23 2011	H24 2012	H25 2013			
北海道・東北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	1	2	0	2	3	1	3	0	3	0	2	1	0	0	0	0	5	28			
北海道											1							1	1			1								1	5				
青森													1																		1	1			
岩手																1										1						2	6		
宮城															1	1			1	1	1	1										3	4		
秋田																			1														2	8	
山形																1						1										1	8		
福島													2									1		2		1	1					1	8		
関東・甲信越	1	0	0	2	1	2	1	3	8	17	13	20	20	25	32	29	25	22	21	22	32	26	30	26	25	19	28	15	23	22	46	556			
茨城											2	1	3	2	2	3	5	1	1	3	3	1	4	2	1	1		1	1	1	5	42			
栃木												1		1	3	3				1	3	2	2	4	3		2	1		3	4	33			
群馬												1		1					1	1	2	1										1	10		
埼玉									1	1	3	1		3	3	1	2			1	4	3	3	1	4	5	7	1	1	3	6	54			
千葉				1					1	4	2	3	7	7	5	5	5	7	4		3	3	2	2	2	3	2	2	2		10	82			
東京	1				1		1	2	1	4	9	4	9	4	8	14	9	8	9	5	12	12	9	11	11	10	4	11	6	13	8	9	207		
神奈川								1	1	1		2	1	1	1	5	6	4	3	2	3	2	6	5	3	5	5	5	2	5	8	77			
新潟													1			1	1			1	1		1							1	1	9	6		
山梨									1						2				1				1									1	6		
長野											2	2	3	1	1	2	2	1	4	1	3	2	4	1	2	1			2	1	1	36	137		
北陸・東海	0	0	0	0	0	2	0	2	0	1	4	5	4	8	6	1	3	4	7	6	3	9	11	7	9	5	3	12	10	3	12	137			
富山															1															1	1	2	2		
石川																									1			1			1	3	3		
福井												2								1													3	8	
岐阜													1	1											1			2	2	1			8		
静岡						1					1		2	1		1	1	3	2	2	1	4	2	1	1	1	1	3	1		2	31			
愛知						1		2			3	3		5	5		2	1	5	3	2	5	7	5	6	3	2	6	4	1	8	79			
三重									1	1	1		1	1								2	1		1		1	2			1	11	11		
近畿	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	1	4	4	4	7	2	3	5	7	6	5	3	3	3	4	4	3	1	7	84			
滋賀														1						1			1									1	4		
京都										1	1		1	1		1				1	1						1				1	9	9		
大阪								1	1	1	1	2		2	3	5		2	4	6	6	6	2	2	2	2	3	3	2	1	4	58			
兵庫																	1	2	1						1						1	1	7	7	
奈良															2									2	1				1			6	6		
和歌山																																	0	0	
中国・四国	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	2	0	2	0	1	2	1	0	2	1	0	3	1	2	1	22	22		
鳥取																										1							3	0	
島根																																		0	0
岡山																									1							2	3	3	
広島																		1		1		1	1									1	5	5	
山口																								1	1								2	2	
香川											1					1							1	1					1			1	4	4	
愛媛														1						1													3	3	
高知				1																							1						2	2	
九州・沖縄	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	4	2	2	1	1	0	0	2	2	1	1	4	1	1	2	2	30	30		
福岡							1									2	1	1					1								1	1		8	8
佐賀																																		0	0
長崎																																	1	1	1
熊本																											1				1		2	2	
大分																																		0	0
宮崎																								1										2	2
鹿児島													1		1	1	1		1	1				1			1					1	9	9	
沖縄								1								1		1							1	1		2	1					8	8
総計	1	0	0	3	1	4	2	7	9	20	20	28	29	39	44	41	39	32	37	35	46	43	52	38	42	30	39	35	38	30	73	857			

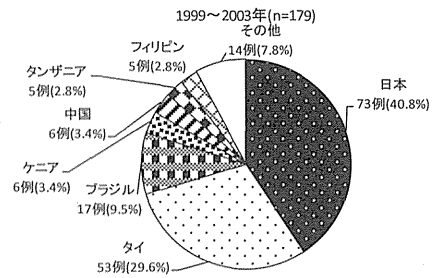
表2 HIV感染妊婦国籍別・年次別分布

地域 国籍	転帰年																									不明	総計	(%)						
	S59 1984	S60 1985	S61 1986	S62 1987	S63 1988	H1 1989	H2 1990	H3 1991	H4 1992	H5 1993	H6 1994	H7 1995	H8 1996	H9 1997	H10 1998	H11 1999	H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008				H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	
日本	0	0	0	3	1	2	2	2	2	4	5	6	13	10	14	19	17	11	16	10	19	19	25	17	17	14	17	17	19	18	22	341	39.8%	
アジア	0	0	0	0	0	0	0	2	3	12	10	17	13	17	24	18	15	12	4	18	22	14	16	15	17	8	12	10	12	8	28	327	38.2%	
タイ								1	3	11	9	11	13	15	23	14	13	9	4	13	9	12	9	5	6	2	4	5	7	1	16	215	25.1%	
フィリピン												3			1	1		2		2	6		2	2	2	1	1	2	2	7	34	4.0%		
インドネシア															1					2			2	3	4	3	3	2	1	4	3	26	3.0%	
中国									1						1	2	1		2	3	1		1	1	1	1	1			1	16	1.9%		
ベトナム												1		1		1						1	1	1	2	3				1	12	1.4%		
ミャンマー								1					1		1						1		1	1	1		2			1	9	1.1%		
ラオス																																5	0.6%	
カンボジア											1													1	1	1		1	1		4	0.5%		
韓国																			1	1				1							3	0.4%		
マレーシア																				2											2	0.2%		
インド												1																			1	0.1%		
中東	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1%	
トルコ共和国																																1	1	0.1%
アフリカ	1	0	0	0	0	2	0	3	2	1	3	4	0	5	3	2	3	3	7	4	1	4	3	1	3	5	8	3	4	2	6	83	9.7%	
ケニア	1							2	1	1	1	1		2	1	1	2	1	2			1	1								0	18	2.1%	
タンザニア						1					1				1	1		1	1	1	2		3		1		1			2	1	15	1.8%	
カメルーン																										2	4		1	2	1	11	1.3%	
エチオピア						1		1			1				1				1						1		1	1	1		0	9	1.1%	
ウガンダ												2		1					1						2			1			1	8	0.9%	
ザンビア																1				1	1	1								2	6	0.7%		
スーダン																										1	2	1			0	4	0.5%	
ガーナ																			2								1	1	1		1	5	0.6%	
ジンバブエ									1																						0	1	0.1%	
ナイジェリア																								1							0	1	0.1%	
ブルンジ												1																			0	1	0.1%	
マラウイ																		1													0	1	0.1%	
ルワンダ														1																	0	1	0.1%	
レソト																										1					0	1	0.1%	
モザンビーク																														1	0	1	0.1%	
中南米	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	2	5	3	2	4	5	6	2	3	5	6	3	4	3	1	4	3	2	7	76	8.9%	
ブラジル									2	1	2	1	2	4	2	1	4	5	5	2	2	5	5	2	3	3		4	2		7	64	7.5%	
ペルー																1									1	1		1		1	0	7	0.8%	
ボリビア														1		1															1	0	3	0.4%
アルゼンチン																					1										0	1	0.1%	
ホンジュラス																								1							0	1	0.1%	
北米	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1%	
アメリカ																																1	1	0.1%
欧州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1	0	0	1	1	0	0	0	7	0.8%	
ウクライナ																								1	2							0	3	0.4%
ルーマニア																													1			0	2	0.2%
ロシア																			1								1				0	2	0.2%	
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0	0	0	1	3	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	8	21	2.5%	
総計	1	0	0	3	1	4	2	7	9	20	20	28	29	39	44	41	39	32	37	35	46	43	52	38	42	30	39	35	38	30	73	857	100.0%	

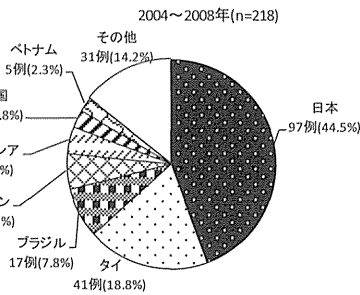
1998年以前	
国籍	症例数
タイ	86
日本	64
ブラジル	14
ケニア	10
エチオピア	4
タンザニア	4
フィリピン	4
ウガンダ	3
ミャンマー	3
ベトナム	2
インド	1
カンボジア	1
ジンバブエ	1
ブルンジ	1
ペルー	1
ボリビア	1
ルワンダ	1
中国	1
合計	202



1999～2003年	
国籍	症例数
日本	73
タイ	53
ブラジル	17
ケニア	6
中国	6
タンザニア	5
フィリピン	5
ザンビア	3
ガーナ	2
インドネシア	1
ウガンダ	1
エチオピア	1
ベトナム	1
ペルー	1
ボリビア	1
マラウイ	1
ロシア	1
韓国	1
合計	179



2004～2008年	
国籍	症例数
日本	97
タイ	41
ブラジル	17
フィリピン	12
インドネシア	9
中国	6
ベトナム	5
タンザニア	4
ウクライナ	3
ミャンマー	3
ウガンダ	2
カンボジア	2
ケニア	2
ペルー	2
マレーシア	2
ラオス	2
韓国	2
アルゼンチン	1
エチオピア	1
カメルーン	1
ザンビア	1
ナイジェリア	1
ホンジュラス	1
ルーマニア	1
合計	218



2009～2013年	
国籍	症例数
日本	85
タイ	19
インドネシア	13
カメルーン	9
ブラジル	9
フィリピン	6
スーダン	4
エチオピア	3
ベトナム	3
ペルー	3
ミャンマー	3
ラオス	3
ガーナ	2
中国	2
ウガンダ	1
カンボジア	1
タンザニア	1
ボリビア	1
モザンビーク	1
ルーマニア	1
レソト	1
ロシア	1
合計	172

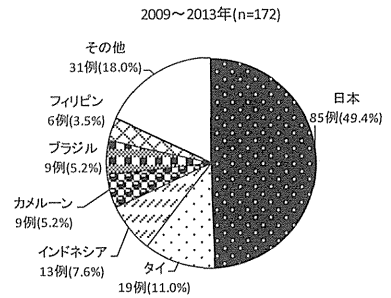


図3 HIV感染妊婦国籍の変動

表3 パートナーの国籍別症例数および HIV 感染割合

地域・国名	総計		感染		非感染		不明
日本	429	50.1%	98	30.1%	228	103	
アジア	66	7.7%	27	60.0%	18	21	
タイ	27	3.2%	9	52.9%	8	10	
インドネシア	14	1.6%	6	54.5%	5	3	
ベトナム	6	0.7%	2	50.0%	2	2	
マレーシア	4	0.5%	4	100.0%			
フィリピン	4	0.5%	2	100.0%		2	
バングラデシュ	2	0.2%	1	50.0%	1		
中国	2	0.2%			1	1	
カンボジア	2	0.2%	1	100.0%		1	
ミャンマー	2	0.2%	1	100.0%		1	
韓国	1	0.1%				1	
インド	1	0.1%	1	100.0%			
パキスタン	1	0.1%			1		
中東	4	0.5%	1	33.3%	2	1	
イラン	2	0.2%			2		
イラク	1	0.1%				1	
トルコ共和国	1	0.1%	1	100.0%			
アフリカ	64	7.5%	38	76.0%	12	14	
ナイジェリア	18	2.1%	11	73.3%	4	3	
ケニア	11	1.3%	9	81.8%	2		
ガーナ	9	1.1%	5	71.4%	2	2	
ウガンダ	7	0.8%	4	100.0%		3	
カメルーン	5	0.6%	3	100.0%		2	
タンザニア	4	0.5%	2	50.0%	2		
エジプト	3	0.4%	1	50.0%	1	1	
ジンバブエ	2	0.2%	1	100.0%		1	
マラウイ	2	0.2%	1	100.0%		1	
コンゴ民主共和国	1	0.1%	1	100.0%			
セネガル	1	0.1%				1	
モザンビーク	1	0.1%			1		
中南米	68	7.9%	27	58.7%	19	22	
ブラジル	52	6.1%	18	50.0%	18	16	
ペルー	11	1.3%	7	87.5%	1	3	
ボリビア	3	0.4%	1	100.0%		2	
ドミニカ	1	0.1%	1	100.0%			
メキシコ	1	0.1%				1	
北米	14	1.6%	2	33.3%	4	8	
アメリカ	12	1.4%	2	40.0%	3	7	
カナダ	2	0.2%		0.0%	1	1	
欧州	3	0.4%	1	100.0%	0	2	
イタリア	1	0.1%				1	
ウクライナ	1	0.1%				1	
ベルギー	1	0.1%	1	100.0%			
不明	209	24.4%	12	70.6%	5	192	
総計	857	100.0%	206	41.7%	288	363	

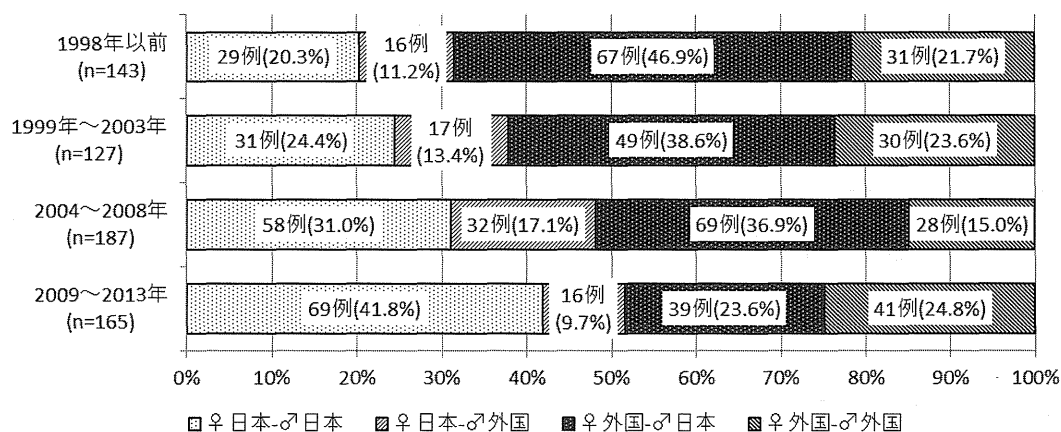


図4 HIV 感染妊婦とパートナーの国籍組み合わせ別変動

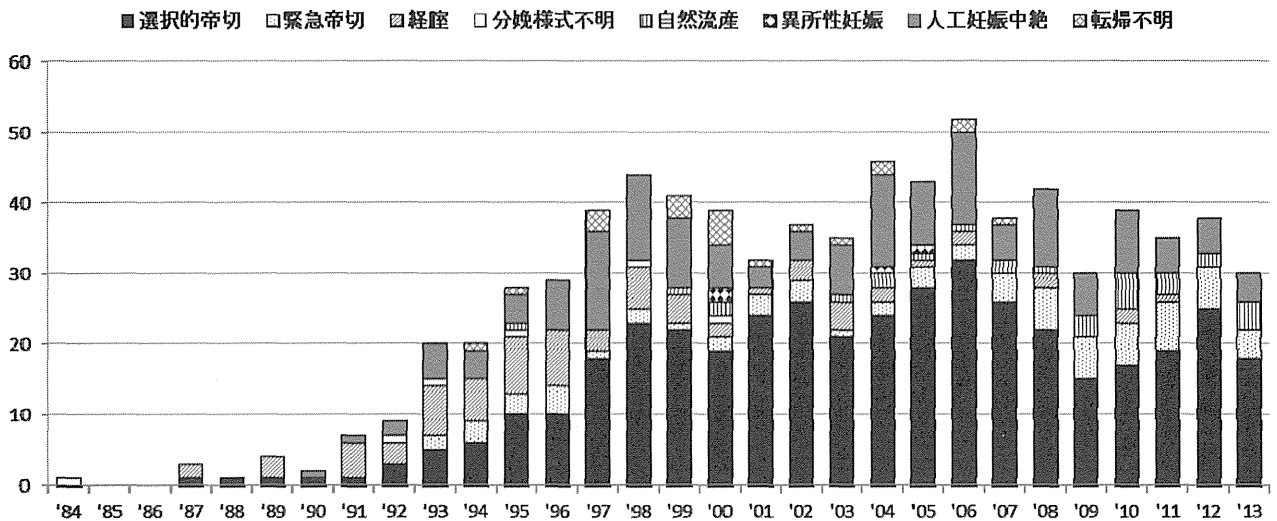


図5 HIV感染妊娠の妊娠転帰別・年次別変動

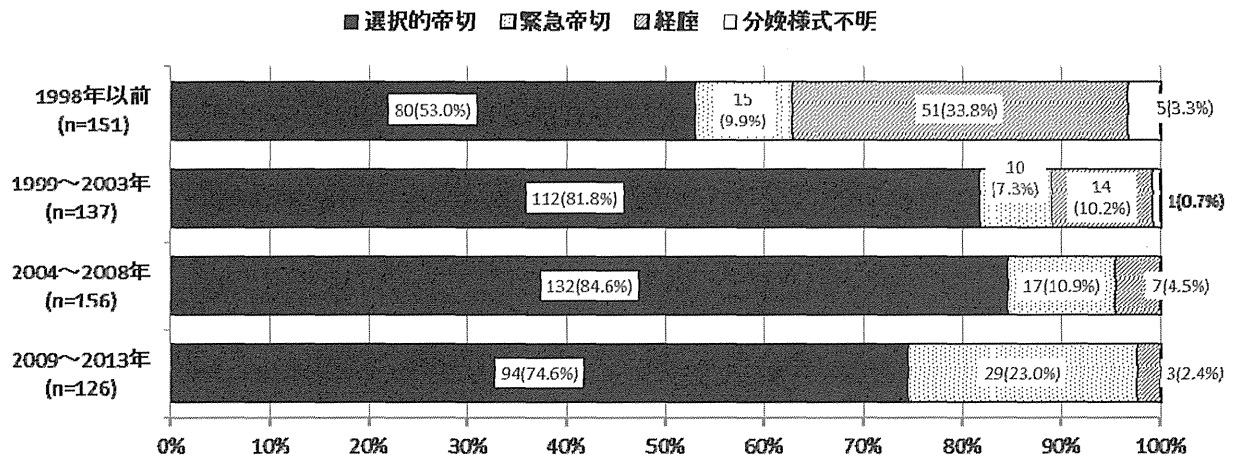


図6 分娩様式別変動

表4 緊急帝切症例における HIV 感染判明時期と緊急帝切理由

判明時期	予定帝切→緊急 切迫早産等		児の異常 NRFS・IUGR等		飛び込み分娩等		不明	合計	(%)
	51	71.8%	5	7.0%	2	2.8%			
分娩前	51	71.8%	5	7.0%	2	2.8%	3	61	85.9%
分娩直前	1	1.4%			2	2.8%		3	4.2%
分娩直後					1	1.4%		1	1.4%
分娩後その他機会	1	1.4%					4	5	7.0%
不明	1	1.4%						1	1.4%
合計	54	76.1%	5	7.0%	5	7.0%	7	71	100.0%

※分娩前(分娩前1週間より前) 分娩直前(分娩前1週間以内前) 分娩直後(分娩後2日以内) 分娩後その他機会(分娩3日以降)

表5 2009~2013年の緊急帝切症例における HIV 感染判明時期と緊急帝切理由

判明時期	予定帝切→緊急 切迫早産等		児の異常 NRFS・IUGR等		飛び込み分娩等		不明	合計	(%)
	26	89.7%	1	3.4%	1	3.4%			
分娩前	26	89.7%	1	3.4%	1	3.4%		28	96.6%
分娩直前								0	0.0%
分娩直後								0	0.0%
分娩後その他機会							1	1	3.4%
不明								0	0.0%
合計	26	89.7%	1	3.4%	1	3.4%	1	29	100.0%

※分娩前(分娩前1週間より前) 分娩直前(分娩前1週間以内前) 分娩直後(分娩後2日以内) 分娩後その他機会(分娩3日以降)

表6 在胎週数と出生児体重の平均

	選択的帝切			緊急帝切			経産			分娩様式不明	自然流産	異所性妊娠	人工妊娠中絶		転帰不明
	症例数	在胎週数	児体重	症例数	在胎週数	児体重	症例数	在胎週数	児体重				(%)	(%)	
1998年以前	平均	36w2d	2,634	15	37w1d	2,724	51	38w3d	2,906	5	1	50	24.2%	5	
	標準偏差	1.9d	451		2.5d	545		2.4d	483						
1999年～2003年	平均	36w3d	2,579	10	35w3d	2,669	14	38w1d	2,949	1	4	30	16.3%	11	
	標準偏差	0.9d	278		2.8d	778		2.1d	383						
2004～2008年	平均	36w5d	2,614	17	33w4d	2,049	7	37w2d	2,791		7	51	23.1%	5	
	標準偏差	0.7d	261		3.6d	761		2.1d	410						
2009～2013年	平均	36w6d	2,610	29	34w6d	2,278	3	31w0d	1,769		17	29	16.9%		
	標準偏差	1.0d	385		2.0d	516		8.2d	1,559						
総計	平均	36w4d	2,608	71	35w1d	2,373	75	38w0d	2,866	6	29	160	20.4%	21	
	標準偏差	1.1d	367		3.0d	689		3.1d	565						

転帰年不明73例、妊娠中 9例除く

表7 分娩様式・妊娠転帰別の母子感染

分娩様式 ・妊娠転帰	母子感染			総計	
	感染	非感染	不明		
選択的帝切	7	363	48	418	48.8%
緊急帝切	7	54	10	71	8.3%
経産	34	31	10	75	8.8%
分娩様式不明	5	1		6	0.7%
自然流産				29	3.4%
異所性妊娠				4	0.5%
人工妊娠中絶				165	19.3%
妊娠中				9	1.1%
転帰不明			1	80	9.3%
総計	53	449	69	857	100.0%

表8 年次別妊娠転帰と母子感染

転帰年	妊娠数	分娩数	分娩/妊娠	選択的帝切				緊急帝切				経産				分娩様式不明			自然流産	異所性妊娠	人工妊娠中絶 中絶/妊娠	転帰不明	妊娠中
				分娩数	選択/分娩	感染	非感染	分娩数	緊急/分娩	感染	非感染	分娩数	経産/分娩	感染	非感染	分娩数	感染	非感染					
S59 1984	1	1	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S60 1985	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S61 1986	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S62 1987	3	3	100.0%	1	33.3%	1	-	-	-	2	66.7%	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S63 1988	1	1	100.0%	1	100.0%	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H1 1989	4	4	100.0%	1	25.0%	1	-	-	-	3	75.0%	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H2 1990	2	1	50.0%	1	100.0%	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	50.0%	-	-
H3 1991	7	6	85.7%	1	16.7%	1	1	-	-	5	71.4%	3	1	-	-	-	-	-	-	1	14.3%	-	-
H4 1992	9	7	77.8%	3	42.9%	3	3	-	-	3	33.3%	2	1	1	1	1	1	1	1	2	22.2%	-	-
H5 1993	20	15	75.0%	5	33.3%	1	4	2	13.3%	1	2	7	35.0%	4	2	1	1	1	5	25.0%	-	-	
H6 1994	20	15	75.0%	6	40.0%	6	3	3	20.0%	1	2	6	30.0%	3	3	-	-	-	4	20.0%	1	-	
H7 1995	28	22	78.6%	10	45.5%	1	9	3	13.6%	1	1	8	28.6%	6	2	1	1	1	4	14.3%	1	-	
H8 1996	29	22	75.9%	10	45.5%	10	4	18.2%	1	3	8	27.6%	2	5	-	-	-	7	24.1%	-	-	-	
H9 1997	39	22	56.4%	18	81.8%	2	15	1	4.5%	1	3	7.7%	2	1	-	-	-	12	35.9%	3	-	-	
H10 1998	44	32	72.7%	23	71.9%	19	2	6.3%	1	6	13.6%	2	3	1	1	1	1	14	27.3%	-	-	-	
H11 1999	41	27	65.9%	22	81.5%	21	1	3.7%	1	1	4	9.8%	2	-	-	-	-	10	24.4%	3	-	-	
H12 2000	39	24	61.5%	19	79.2%	17	2	8.3%	1	1	2	5.1%	2	1	1	2	2	6	15.4%	5	-	-	
H13 2001	32	28	87.5%	24	85.7%	22	3	10.7%	3	3	1	3.1%	1	-	-	-	-	3	9.4%	1	-	-	
H14 2002	37	32	86.5%	26	81.3%	21	3	9.4%	3	3	8.1%	1	2	-	-	-	-	4	10.8%	1	-	-	
H15 2003	35	26	74.3%	21	80.8%	18	1	3.8%	1	4	11.4%	3	3	-	-	-	-	7	20.0%	1	-	-	
H16 2004	46	28	60.9%	24	85.7%	23	2	7.1%	1	1	2	4.3%	2	-	-	-	2	13	28.3%	2	-	-	
H17 2005	43	32	74.4%	28	87.5%	1	25	3	9.4%	3	1	2.3%	1	1	-	-	1	9	20.9%	-	-	-	
H18 2006	52	36	69.2%	32	88.9%	30	2	5.6%	2	2	3.8%	1	1	-	-	-	13	25.0%	2	-	-	-	
H19 2007	38	30	78.9%	26	86.7%	21	4	13.3%	3	3	-	-	-	-	-	-	5	13.2%	1	-	-	-	
H20 2008	42	30	71.4%	22	73.3%	18	6	20.0%	6	2	4.8%	1	1	-	-	-	11	26.2%	-	-	-	-	
H21 2009	30	21	70.0%	15	71.4%	12	6	28.6%	1	5	-	-	3	-	-	-	6	20.0%	-	-	-	-	
H22 2010	39	25	64.1%	17	68.0%	1	15	6	24.0%	6	2	5.1%	2	5	-	-	9	23.1%	-	-	-	-	
H23 2011	35	27	77.1%	19	70.4%	16	7	25.9%	5	1	2.9%	-	3	-	-	-	5	14.3%	-	-	-	-	
H24 2012	38	31	81.6%	25	80.6%	19	6	19.4%	3	3	-	-	2	-	-	-	5	13.2%	-	-	-	-	
H25 2013	30	22	73.3%	18	81.8%	15	4	18.2%	4	4	-	-	4	-	-	-	4	13.3%	-	-	-	-	
不明	73	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	6.8%	59	9	9	
総計	857	570		418	7	363	71	7	54	75	34	31	6	5	1	29	4	165	80	21	21	21	

表9 HIV感染妊婦の血中ウイルス量最高値

ウイルス量(コピー/ml)	症例数	(%)
100,000以上	33	7.0%
10,000以上100,000未満	123	26.2%
1,000以上10,000未満	122	26.0%
感度以上1,000未満	50	10.6%
感度未満	142	30.2%
総計	470	100.0%

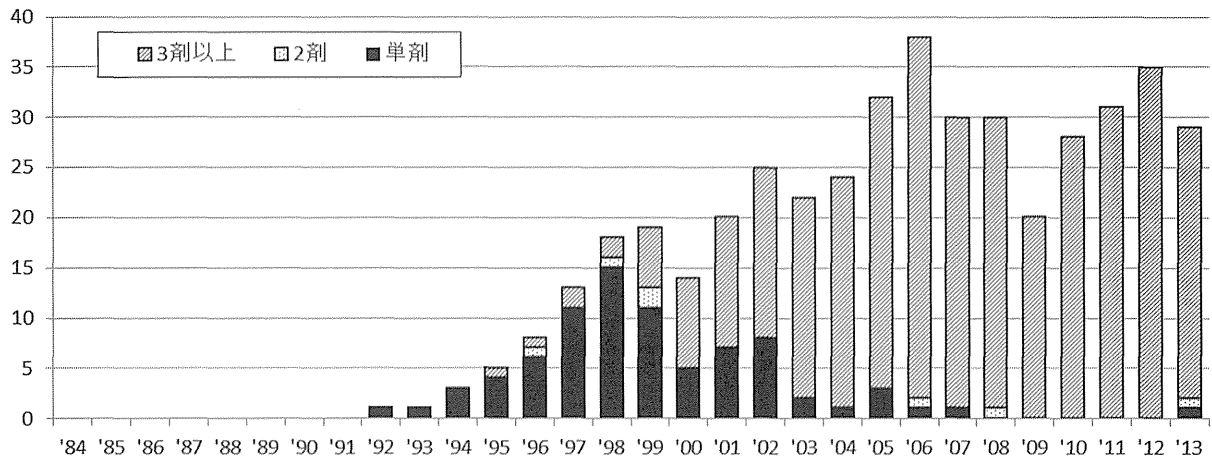


図7 抗ウイルス薬投与例の薬剤数別年次推移

表10 抗ウイルス薬投与による血中ウイルス量の変化

	1/100以下に減少		1/10以下に減少		やや減少		感度未滿維持		増加		総計	
単劑	0	0.0%	6	2.1%	16	5.6%	4	1.4%	6	2.1%	32	11.2%
2劑	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%	2	0.7%
3劑以上	101	35.4%	58	20.4%	16	5.6%	69	24.2%	7	2.5%	251	88.1%
総計	101	35.4%	64	22.5%	33	11.6%	74	26.0%	13	4.6%	285	100.0%

表11 分娩様式別母子感染率（産婦人科データベース）

	非感染	感染	母子感染率
選択的帝切	328	1	0.30%
緊急帝切	50	3	5.66%
経膣	23	9	28.13%
総計	401	13	3.14%

※産婦人科調査からのデータで児の異常等により分娩後にHIVが判明した症例を除く

表 12 HIV 感染判明時期・妊娠転帰別母子感染率（平成 26 年度統合データベース）

感染判明時期 ・妊娠転帰	合計	母子感染			母子感染率	
		感染	非感染	不明		
妊娠前	334		3	187	28	1.6%
選択的帝切	176	52.7%	1	154	21	0.6%
緊急帝切	31	9.3%		27	4	0.0%
経膣	10	3.0%	2	5	3	28.6%
分娩様式不明	1	0.3%		1		0.0%
自然流産	23	6.9%				
異所性妊娠	1	0.3%				
人工妊娠中絶	76	22.8%				
妊娠中	8	2.4%				
転帰不明	8	2.4%				
今回妊娠時	350		7	195	27	3.5%
選択的帝切	188	53.7%	3	168	17	1.8%
緊急帝切	30	8.6%	2	22	6	8.3%
経膣	9	2.6%	1	5	3	16.7%
分娩様式不明	1	0.3%	1			100.0%
自然流産	5	1.4%				
異所性妊娠	3	0.9%				
人工妊娠中絶	71	20.3%				
妊娠中	1	0.3%				
転帰不明	42	12.0%			1	
不明・妊娠中管理あり	29		0	16	5	0.0%
選択的帝切	21	72.4%		16	5	0.0%
緊急帝切	0	0.0%				
経膣	0	0.0%				
分娩様式不明	0	0.0%				
自然流産	0	0.0%				
異所性妊娠	0	0.0%				
人工妊娠中絶	6	20.7%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	2	6.9%				
分娩直前	17		1	14	2	6.7%
選択的帝切	6	35.3%		4	2	0.0%
緊急帝切	3	17.6%		3		0.0%
経膣	8	47.1%	1	7		12.5%
分娩様式不明	0	0.0%				
自然流産	0	0.0%				
異所性妊娠	0	0.0%				
人工妊娠中絶	0	0.0%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	0	0.0%				
分娩直後	12		6	3	3	66.7%
選択的帝切	0	0.0%				
緊急帝切	1	8.3%	1			100.0%
経膣	11	91.7%	5	3	3	62.5%
分娩様式不明	0	0.0%				
自然流産	0	0.0%				
異所性妊娠	0	0.0%				
人工妊娠中絶	0	0.0%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	0	0.0%				
児から判明	20		20	0	0	100.0%
選択的帝切	1	5.0%	1			100.0%
緊急帝切	4	20.0%	4			100.0%
経膣	15	75.0%	15			100.0%
分娩様式不明	0	0.0%				
自然流産	0	0.0%				
異所性妊娠	0	0.0%				
人工妊娠中絶	0	0.0%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	0	0.0%				
分娩後その他機会	19		11	7	0	61.1%
選択的帝切	1	5.3%	1			100.0%
緊急帝切	1	5.3%		1		0.0%
経膣	14	73.7%	8	6		57.1%
分娩様式不明	2	10.5%	2			100.0%
自然流産	1	5.3%				
異所性妊娠	0	0.0%				
人工妊娠中絶	0	0.0%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	0	0.0%				
不明	76		5	27	4	15.6%
選択的帝切	25	32.9%	1	21	3	4.5%
緊急帝切	1	1.3%		1		0.0%
経膣	8	10.5%	2	5	1	28.6%
分娩様式不明	2	2.6%	2			100.0%
自然流産	0	0.0%				
異所性妊娠	0	0.0%				
人工妊娠中絶	12	15.8%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	28	36.8%				
総計	857		53	449	69	10.6%

※ 分娩直前は
分娩前1週間以内、
分娩直後は
分娩後2日以内と定義した

表 13 分娩様式・HIV 感染判明時期別母子感染率

分娩様式 HIV感染判明時期	合計	母子感染			母子感染率	
		感染	非感染	不明		
選択的帝王切	391	4	342	45	1.2%	
妊娠前	176	45.0%	1	154	21	0.6%
今回妊娠時	188	48.1%	3	168	17	1.8%
不明・妊娠中管理あり	21	5.4%		16	5	0.0%
分娩直前	6	1.5%		4	2	0.0%
分娩直後	0	0.0%				
緊急帝王切	65		3	52	10	5.5%
妊娠前	31	47.7%		27	4	0.0%
今回妊娠時	30	46.2%	2	22	6	8.3%
不明・妊娠中管理あり	0	0.0%				
分娩直前	3	4.6%		3		0.0%
分娩直後	1	1.5%	1			100.0%
経膣	38		9	20	9	31.0%
妊娠前	10	26.3%	2	5	3	28.6%
今回妊娠時	9	23.7%	1	5	3	16.7%
不明・妊娠中管理あり	0	0.0%				
分娩直前	8	21.1%	1	7		12.5%
分娩直後	11	28.9%	5	3	3	62.5%
総計	494		16	414	64	3.7%

※HIV感染判明時期が「分娩後その他機会」「児から判明」「不明」を除いた494例

表 14 1999年以前の分娩様式・HIV 感染判明時期別母子感染率

分娩様式 HIV感染判明時期	合計	母子感染			母子感染率	
		感染	非感染	不明		
選択的帝王切	87	2	79	6	2.5%	
妊娠前	10	11.5%		10		0.0%
今回妊娠時	57	65.5%	2	53	2	3.6%
不明・妊娠中管理あり	15	17.2%		12	3	0.0%
分娩直前	5	5.7%		4	1	0.0%
分娩直後	0	0.0%				
緊急帝王切	13		3	7	3	30.0%
妊娠前	2	15.4%		1	1	0.0%
今回妊娠時	7	53.8%	2	3	2	40.0%
不明・妊娠中管理あり	0	0.0%				
分娩直前	3	23.1%		3		0.0%
分娩直後	1	7.7%	1			100.0%
経膣	27		8	13	6	38.1%
妊娠前	8	29.6%	2	4	2	33.3%
今回妊娠時	6	22.2%	1	2	3	33.3%
不明・妊娠中管理あり	0	0.0%				
分娩直前	5	18.5%	1	4		20.0%
分娩直後	8	29.6%	4	3	1	57.1%
総計	127		13	99	15	11.6%

※HIV感染判明時期が「分娩後その他機会」「児から判明」「不明」を除いた127例

表 15 2000年以降の分娩様式・HIV 感染判明時期別母子感染率

分娩様式 HIV感染判明時期	合計	母子感染			母子感染率	
		感染	非感染	不明		
選択的帝王切	304	2	263	39	0.8%	
妊娠前	166	54.6%	1	144	21	0.7%
今回妊娠時	131	43.1%	1	115	15	0.9%
不明・妊娠中管理あり	6	2.0%		4	2	0.0%
分娩直前	1	0.3%			1	
分娩直後	0	0.0%				
緊急帝王切	52		0	45	7	0.0%
妊娠前	29	55.8%		26	3	0.0%
今回妊娠時	23	44.2%		19	4	0.0%
不明・妊娠中管理あり	0	0.0%				
分娩直前	0	0.0%				
分娩直後	0	0.0%				
経膣	11		1	7	3	12.5%
妊娠前	2	18.2%		1	1	0.0%
今回妊娠時	3	27.3%		3		0.0%
不明・妊娠中管理あり	0	0.0%				
分娩直前	3	27.3%		3		0.0%
分娩直後	3	27.3%	1		2	100.0%
総計	367		3	315	49	0.9%

※HIV感染判明時期が「分娩後その他機会」「児から判明」「不明」を除いた367例